

JAAF 陸上競技研究紀要

財団法人日本陸上競技連盟
ISSN1349-7596



**Bulletin of Studies
in Athletics of JAAF
Vol.6, 2010**

「陸上競技研究紀要」

(Bulletin of Studies in Athletics of JAAF)

投稿規定

陸上競技研究紀要編集委員会

1. 投稿資格について

本紀要に投稿できるのは、原則として(財)日本陸上競技連盟登記登録者(例:公認コーチなど)とするが、それ以外でも編集委員会が認めた場合には投稿することができる。

2. 投稿内容および種類について

投稿内容は陸上競技についての理論と実践に関するもので、内容に応じて、総説、原著、資料、指導法および指導記録の報告などに分類される。スタイルは和文、英文のどちらでもよい。

投稿論文には上記の投稿種別を明記し、英文のタイトル、著者、所属、総説および原著には要約(150語以内)をつける。

(注:何らかの理由で英文要約等の作成が困難な場合は、編集委員会にその旨をご相談ください)

3. 採否等について

原稿は査読を行い、査読結果をもとに採否および掲載順序の決定、校正などは編集委員会が行う。

4. 原稿の書き方について

原稿は原則として、ワードプロセッサで作成する。本文は、横42文字×縦38字で1頁とする。(1頁は約1600字、刷り上がり10頁以内、図表もその頁数に含む、すべて白黒にて作成)

英文は、A4サイズタイプ用紙を使用し、15枚以内を原則とする。

計量単位は、原則として国際単位系(m, kg, secなど)とする。

また、英文字および数字は半角とする。

5. 文献の書き方について

本文中の文献は、著者(発行年)という形式で表記する。

例) 田中(1996)は —————

文献は、原則として、本文最後に著者名のABC順で記載する。書誌データの記載方法は、著者名(発行年)、論文名、誌名、巻(号)、ページの順とする。

例) 吉原 礼, 武田 理, 小山宏之, 阿江通良(2006) 女子棒高跳選手の跳躍動作のバイオメカニクスの分析. 陸上競技研究紀要, 2: 58-64.

伊藤 宏(1992) 陸上競技の発育・発達. 陸上競技指導教本—基礎理論編—. 日本陸上競技連盟編, 大修館書店, 55-72.

同一著者、同発行年の文献を複数引用した場合は発行年の後にa, b, cをつける。

例) 田中ら(1996 b)は、—————

6. 原稿の提出先

投稿原稿(本文、図表など)は、下記へE-mailの添付資料として送付するとともに、プリントしたもの1部を郵送する。

〒150-8050

東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館3階

財団法人日本陸上競技連盟

「陸上競技研究紀要」編集委員会宛

(Tel 03-3481-2300 Fax 03-3481-2449)

E-mail:kiyou@rikuren.or.jp

7. 原稿の締め切り

原稿の締め切りは、1月末日とする。

8. その他

本研究紀要に掲載された内容の著作権は財団法人日本陸上競技連盟に帰属する。

あ い さ つ

(財) 日本陸上競技連盟
専務理事 澤木 啓祐

『陸上競技研究紀要第6巻』が発刊の運びとなった。

昨年8月に開催されたベルリン世界陸上では、男子やり投で村上選手が銅メダルを、女子マラソンでは尾崎選手が銀メダルを獲得し、大阪世界陸上や北京五輪からの苦い経験を経た後の明るい話題となった。また、昨年来複数の種目において日本新記録の樹立等、記録の向上が見られたが、これらの背景には科学的サポートが一翼を担っていることは言うまでもない。

競技力向上のためには効果的なトレーニングが求められるが、それは現場における「指導者の技術（勘・眼力）」等を含めた指導力と共に、データの調査・分析に基づく「科学性」とが「総合的に機能」して達成されるものである。本誌に掲載の『医科学サポート研究 REPORT』（14編）においては世界一流競技者により収集したデータの分析等も掲載されているが、これらの研究結果がトレーニングの現場において効果的にフィードバックされ、競技結果として実を結ぶことを期待する。

また、来年7月にはアジア選手権自国開催を控えており、大会の成功には開催国である日本選手の活躍が鍵を握ることは自明であるが、加えて競技会がイベントとして盛り上がるための演出もまた成功への重要な要素である。本誌における投稿論文（原著論文：2編、資料報告4編、計6編）には、「競技会運営に関する」調査報告も含まれており、これらが今後の競技会運営や陸上競技の普及に対しても寄与することを願ってやまない。

本誌にご寄稿いただいた皆様に厚く御礼申し上げるとともに、本誌が皆様にとって日ごろの指導の一助となれば幸いである。

陸上競技研究紀要

Bulletin of Studies in Athletics of JAAF

Vol.6 2010

目 次

【原著論文】

倒立振子モデルを用いた男子 20km 競歩レースにおける身体重心水平速度の分析
・・・・・・・・法元康二ほか・・・1

日清食品カップ全国小学生陸上競技交流大会に出場した選手の食生活に関する調査
・・・・・・・・田口素子ほか・・・11

【資料報告】

第 25 回日清食品カップ全国小学生陸上競技交流大会優勝選手の食事実態について
・・・・・・・・大畑好美ほか・・・19

第 12 回世界選手権ベルリン大会の女子マラソンにおける環境温度条件とパフォーマンス
・・・・・・・・梶原洋子ほか・・・30

全国小学生クロスカンントリーリレー研修大会の競技運営に関する小学生競技者の満足度調査
—2009 年の大会を中心に—
・・・・・・・・岡野 進ほか・・・36

競技会アナウンスに関する観客の満足度調査
—スーパー陸上競技大会 2009 川崎を中心に—
・・・・・・・・阿保雅行ほか・・・43

【日本陸連科学委員会研究報告 第 9 巻 (2010) 陸上競技の医科学サポート研究 REPORT2009】
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51